

風船割り（紙風船・ゴム風船）

運営マニュアル

①

目的・概要

元立ち（高校生・スタッフ）の打突部位（面・小手・胴）や空中の風船を、竹刀で狙って割る体験ブースです。「紙風船（割れにくい）」→「ゴム風船（ぼよよんと跳ね返る）」の順に難易度を上げ、成功体験と盛り上がりを両立します。

②

ルール（基本）

- 来場者は安全線の内側に入り、合図があってから打つ（待機中は竹刀を振らない）
- 紙風船：空中に投げた紙風船を竹刀で割る（割れにくいので「当てる」でOK）
- ゴム風船：参加者が膨らませた風船を、元立ちの面・小手等にテープで固定し、竹刀で割る
- 割れたら次へ交代（1人1回または2回など、混雑状況で調整）

③

必要人数（目安）

- 受付・順番整理：1名（待機列の整理、説明、交代替理）
- 風船係：1名（紙風船の準備、ゴム風船の膨張サポート、テープ貼付）
- 元立ち：1～2名（高校生推奨：面・小手・胴に固定／安全確保）
- 安全監視・回収：1名（周辺の接触防止、割れた破片回収、転倒防止）

④

備品

■ 体験用（必須）

- 紙風船（十分な数量）／ゴム風船（十分な数量）
- 竹刀（複数本：サイズがあると良い）
- ガムテープ／養生テープ（風船固定用）
- 手動ポンプ（任意：あると回転率が上がる）

■ 会場備品（推奨）

- カラーコーン／床テープ（安全線・待機線のマーキング）
- ゴミ袋（割れた風船の回収）
- ウェットティッシュ（手の汚れ・テープ処理）



▲ 紙風船：空中に投げて打つチャレンジ

⑤

レイアウト（推奨）

エリア構成

- ① 受付・待機列（入口側）
- ② 風船準備ゾーン（紙風船補充／ゴム風船を膨らませる場所）
- ③ 実施ゾーン（元立ち＋参加者：安全線内）
- ④ 回収・整頓ゾーン（破片回収、竹刀返却、次の参加者へ誘導）

※実施ゾーンの周囲は、第三者が横切らないようコーンや床テープで区画します。

⑥

事前準備（開始前 10 分）

- 安全線（打突ライン）と待機線を床テープ／コーンで明確化
- 紙風船・ゴム風船・テープ・ポンプを「手の届く位置」に配置
- 元立ちの立ち位置（面・小手・胴）と参加者位置の距離を固定（安全優先で広め）
- 割れた風船の回収手順（誰が・いつ拾うか）を決める



▲ 会場設営・待機列・区画の参考

⑦

当日の運営手順

【A】紙風船：空中チャレンジ

- 受付→安全ルール説明（振り回さない／合図後に打つ）
- スタッフが紙風船を「頭より少し上」に投げる
- 参加者は1回打って終了（混雑時）／余裕があれば2回まで
- 成功・不成功に関わらず拍手→次へ交代

【B】ゴム風船：固定チャレンジ

- 参加者がゴム風船を膨らませる（ポンプがある場合はポンプ優先）
- 風船係が、元立ちの面・小手・胴のいずれかにテープで固定
- 合図後に参加者が1回打突（割れない場合も「ぼよよん」を楽しむ）
- 割れたら回収→次へ交代（割れなくても1回で交代）



▲ 運営例：元立ちに向かって風船を割る

⑧

安全管理（重要）

- 打突中は参加者 1 名のみ安全線内（兄弟・保護者の同伴は外側）
- 竹刀の持ち方：基本は中段。振り上げすぎないように声かけ
- 元立ちは「受ける準備」を徹底し、周囲との距離を確保
- 割れた風船片は小さい子が誤飲するリスクがあるため、すぐ回収
- テープは肌に直接貼らない（衣類・防具の上に固定）



▲ 運営例：風船が「ぼよん」と跳ね返る場面

⑨

トラブル対応（よくあるケース）

- 風船が割れない：「当たったら OK」とルールを簡略化し、拍手で盛り上げる
- 混雑：紙風船は 1 回、ゴム風船は固定部位を面に統一して回転率を上げる
- テープが剥がれる：養生テープ→ガムテープに切替／貼付面を乾いた布で拭く
- 泣いてしまう：音に驚く子がいるため、事前に「割れると音がするよ」と一言

⑩

備品チェックリスト（当日）

✓ 確認項目

- ☐ 紙風船（十分な数量）／ゴム風船（十分な数量・予備含む）
- ☐ 竹刀（複数）
- ☐ ガムテープ／養生テープ／はさみ
- ☐ 手動ポンプ（任意）
- ☐ カラーコーン／床テープ（安全線・待機線）
- ☐ ゴミ袋（破片回収）／ウェットティッシュ